

[佳 作]

## 「一つの小さな世界」

双葉中学校

3年 惣坊 茜音

北方領土問題。それは、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の権利を巡る日口間での対立のことです。終戦から72年経った今でも、この問題は解決していません。そして、解決にはまだ多くの時間が必要とされるのも事実です。

日本側は長年に渡り、四島返還を求めてきました。しかし、ロシアにとって資源が豊富な北方領土は経済活動において重要な島であり、簡単に返すわけにはいきません。そして、このように多くの時間がかかっているのは、私達全員が平和的解決を望んでいるからでもあるのです。

そもそも「解決」とは何なのでしょう。私は四島全てが返還されることが「解決」なのだと思っていました。しかし、「ジョバンニの島」という映画を見て、私の考えは変わりました。この映画は、色丹島に住む一人の男の子の視点から、ソ連に占領された事実が描かれている映画です。ソ連軍に多くの家が荒らされ、夜中に船で逃げ出した人々が死ぬ、そんな悲しい事実が伝えられています。しかし、子供達はそんな中でも希望を持っていました。ソ連の子供達が「赤とんぼ」を歌い、日本の子供達が「カチューシャ」を歌うシーンでは恨みも苦しみも悲しみもない二国が一つになった世界がありました。その後、日本人は樺太に送られ、島にはソ連の人々だけが残りました。もし、日本人が一人でも残っていたらどうなっていたのだろうかとは疑問に思いました。この一つの小さな世界が少しでも残っていたら、私達はこれほどまでロシアと争い合うこともなかったと考えます。

今、私達は「解決」というものを考え直す時がきているのではないのでしょうか。二つの国が一つになること、それが私の考える「解決」です。日口間で交流を深め、互いの文化や言語を教え合うという世界が出来た時、私達は「解決」というモノを互いの国で共有することが出来ると思います。

そのために、私達はビザなし交流を増やしていくべきだと思います。現在、島の人々との交流の場は限られ、島へ旅行することも出来ません。北方領土を意見交流、共有の場とすることで、新たな策が生まれていくと私は考えます。

「解決」。それは簡単なことではありません。私達の世代で達成出来るかどうか分かりません。二つの国を一つにする、小さな世界を北方領土に作り上げるという「解決」に向け、私達は行動していくべきだと思います。